

キアンコウ(あんこう)



生態的特徴等

【生態】北海道以南の日本沿岸に分布する。本県沖の主な分布水深は75～250mで、産卵期の初夏にかけては水深75mより浅瀬に移動する。雌は雄よりも成長が早く大型になる(図1)。主に魚類を食べる。

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁獲され、平潟、大津、久慈漁港など底曳網漁業の基地で水揚げが多い。盛漁期は春(4～6月)、魚価の高いのは冬(11～2月)。

【利用】郷土料理のあんこう鍋(どぶ汁)、友酢和えの食材として有名。県の旬のさかな(冬)に選定されているほか(H7年)、H26年に県が実施した地魚認知度調査で1位となり一般にも良く知られている。

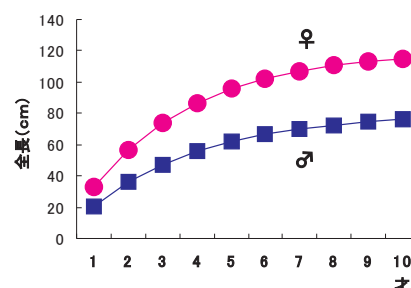


図1 キアンコウの成長

資源は高位・増加, 久しぶりに100ト超えの水揚げ

(漁獲量) H4年, H8～10年は漁獲量が年間100トを超えていたが, H11年からH28年までの間は36～99トで推移していた。H29年は108トとなり, 久しぶりに100トを超えた。(図2)。

(加入量) 近年では, H27年冬の調査船調査において新規群(小型群)の良好な加入が確認されており, それがその後の漁獲量増加につながっていると考えられる。

(水準と動向) 水準は, 過去の底曳網のCPUE (kg/隻・日)の推移(図3)から「高位」, 動向は, 直近5年間のCPUEの傾向から「増加」とした。

水準



動向

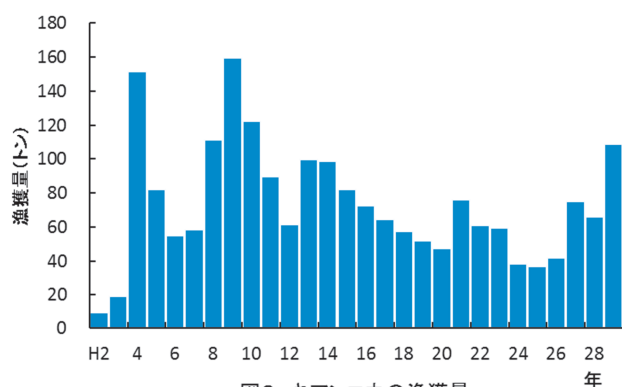


図2 キアンコウの漁獲量
(水試システム, 属地)

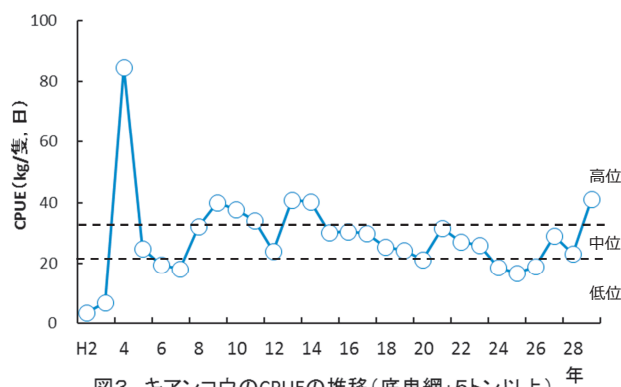


図3 キアンコウのCPUEの推移(底曳網:5トン以上) 年

【全国の漁獲動向】

- ・ 茨城県以外の主な産地は, 青森県, 福島県のほか, 島根県, 山口県での水揚げも多い。

評価期間: 平成29年1～12月 更新日: 平成30年11月1日